

2024 年（令和 6 年）10 月 24 日

逗子市教育委員会

逗子市重要文化財を新たに指定しました

2024 年（令和 6 年）10 月 23 日付けで、

神武寺の 木造十一面観音菩薩坐像^{かんのんぼさつざぞう} を市重要文化財に指定しました。

●市重要文化財とは

逗子市では、市内の文化財のうち、学術的に価値が高いものを重要文化財に指定しています。これまでに仏像や建物など 22 件を指定し保護を図ってきました。その内訳は、建造物 3 件、絵画 1 件、彫刻 8 件、工芸 2 件、史跡 5 件、天然記念物 2 件、考古資料 1 件です。

●新指定文化財の概要

新指定文化財は沼間 2 丁目の神武寺が所有する十一面観音菩薩坐像で、分類は彫刻、時代は鎌倉時代（14 世紀前半）です。これにより、市重要文化財は 23 件となりました。

●どんな特徴、価値があるのか

神武寺の木造十一面観音菩薩坐像は、明治初年の神仏分離の折、鎌倉荏柄天神社^{えがらてんじんしゃ}より遷されたと伝えられるもので、バランスのとれた姿形、張りのある秀麗な面立ち、切れの良い衣の削り出しなど、その作風は運慶の流れを汲む慶派仏師^{けいは}の伝統をそなえた正統的な秀作と判断され、文化財的価値が極めて高いと評価されます。

●神武寺とは

神武寺は天台宗の寺院で、神亀元年（724 年）に聖武天皇^{しょうむ}の命を受けて行基菩薩^{ぎょうき}が開創したと伝える古刹です。

●いつ拝観できるのか

令和 6 年 11 月 18 日（月）～11 月 24 日（日）に神武寺で行われる開創 1300 年記念大開帳の際に拝観できます（午前 9 時～午後 4 時 要拝観料）。通常は拝観することができませんのでご注意ください。

【付属資料】

資料 1：指定理由書

資料 2：逗子市内所在指定文化財等一覧

本件に関するお問い合わせ先

教育部 社会教育課 佐藤・吉田

電話：046-873-1111 内線 520

〔逗子市指定文化財 指定理由書〕

【物件名】

木造十一面観音菩薩坐像 1 軀

鎌倉時代（14 世紀前半）

逗子市沼間 2-1402 神武寺

【形状】

髻頂に仏面を付け、髻の基部に四面、天冠台の地髪に六面の頭上面を付ける（正面に菩薩相三、左側に瞋怒相三、右側に牙上出相三、後ろにも牙上出相一）。地髪正面に化仏を付ける。頭髪は束ね目入り毛筋彫り。鬢髪一束が耳をわたる。天冠台は紐二条の上に列弁文帯を重ね、正面と両側面に花形飾を配する。白毫相をあらわす。耳垂部環状。三道相をあらわす。条帛・天衣を懸け、裙と腰布を着ける。左腕は屈臂して蓮華を挿した水瓶を握り、右腕はやや屈臂して掌を上全指を延べて膝上に置く。右足を外にして結跏趺坐する。

【法量】（単位cm）

像高 54.5 （1 尺 7 寸 3 分）

髪際高 40.2 （1 尺 3 寸）

顎～頭頂 24.2 面長 10.1 面幅 9.2 耳張 11.5

面奥 12.2 肘張 26.8 胸厚 13.1 腹厚 15.0

膝張 37.9 膝高 9.8（左）9.0（右）膝奥 27.1 像奥 33.8

台座 62.0（幅）57.0（奥）55.0（高） 光背 52.5（幅）59.0（高）

【品質構造】

ヒノキ材。割矧ぎ造り。玉眼嵌入。肉身部金泥塗り。着衣部布貼り黒錆漆塗り（元彩色か）。

頭体幹部は一材製。両耳後ろから体側を通る線で前後に割矧いで、内削りのうえ割首にする。体部背面に地付にいたる背板を足す。両脚部に横木一材を矧ぎ、裳先に別一材を矧ぐ。両腰脇に別材を矧ぐ。両腕を肩・肘・手首で矧ぐ。肩部は蟻柄で上から接合する。像底部は幅 24.0・奥 17.2・深さ 2.4 cm の刳上げを施し上底式にする。頭部の頭頂仏面・頭上面・化仏を別に矧ぐ（頭頂仏面・頭上面は面部割矧ぎ玉眼嵌入）。左右肘裏の天衣・左腹部の条帛垂下部・背面条帛垂下部を別材で矧ぐ。左手に握る水瓶を別材で矧ぐ。金銅製臂釧・腕釧・蓮華・胸飾・宝冠笄など（後補）を装着する。

【保存状態】

当寺に移座以前、鎌倉市二階堂の荏柄天神社に丁重に祀られていた像とおもわれ、全体に

保存状態は良好で、本体は当初の像容をほぼ完全に伝えている。像表面の彩色などに多少の後補を認める。金銅製臂釧・腕釧などは後補とみられる。光背（蓮弁形拳身光。木製漆箔）・台座（蓮華・岩・框。木製漆箔・彩色・漆塗り）は後補。台座框上の左右に岩座を設けて立つ不動明王・毘沙門天の立像（像高各 23.0 cm、一木造、彫眼、胡粉地彩色）は観音像とは別作。造形的に優れた近世作とみられる。

【伝来】

明治初年の神仏分離の折、鎌倉の荏柄天神社より遷されたという。19 世紀の編纂である『新編相模国風土記稿』の同社項に「本社中央に菅公束帯の座像を置き（中略）右方に天拝山祈誓の立像左方に本地仏十一面観音の像を置く」とあり、この像にあたるものとみられる。

【考察・備考】

神武寺は鷹取山から続く山中にある古刹で、創建は奈良時代、聖武天皇の霊夢により、行基が開山したと伝える。鎌倉時代には、霊場として源頼朝や幕府の厚い崇敬をうけた。

当寺客殿の本尊脇の厨子に安置されている木造十一面観音菩薩坐像は、明治初年の神仏分離の折、鎌倉荏柄天神社より遷されたものと伝えており、荏柄天神社では天神坐像を中心にして左右に天神立像・本地仏十一面観音坐像を配す三尊形で祀られていた。この形式がいつから行われたのかは定かでないが、いずれ本地垂迹に基づくプランであることは確かといえる。

張りのある秀麗な面立ちや、頭体のバランスのとれた形姿など、独特の雰囲気をもった美作である。切れの良い衣文刻出や、運慶の考案とも云われる像底部の上底式の構造など、鎌倉前期からの伝統を引く慶派系統の作とおもわれる。また、脚部にみられる、腰布端の波打つような衣襷表現は、慶派作例とされる箱根町・興福院の普賢菩薩坐像（永仁 5 年〔1297〕銘）にもみられる。また、この衣襷表現もふくめた像の丁寧な造形、雰囲気には、例えば 14 世紀半ばに活躍した「運慶五代孫」を名乗る京仏師康俊作の兵庫・圓教寺金剛薩埵坐像あたりとの類似性も感じられ、本像の造立時期がそれらと近い頃であることをおもわせる。

本像は鎌倉荏柄天神社と極めて深い関係を持つ歴史的に重要な像であり、その作風は慶派仏師の伝統をそなえた正統的な秀作と判断される。

本市の文化財として指定すべき、重要な尊像である。



木造十一面觀音菩薩坐像

逗子市内所在指定文化財等一覧

神奈川県逗子市

国指定（4件）

件 名	種 別	指定年月日	所有者・管理者	所 在 地	備 考
五 輪 塔（石造 乾元二年銘）	建造物	昭和28年 8 月 29 日	東昌寺	池子 2 丁目	
名 越 切 通	史 跡	昭和 41 年 4 月 11 日	市・民有地	小坪 7 丁目、久木 9 丁目	鎌倉市にまたがる
和 賀 江 嶋	史 跡	昭和 43 年 10 月 14 日	官有地	小坪 5 丁目	鎌倉市にまたがる
長 柄 桜 山 古 墳 群	史 跡	平成 14 年 12 月 19 日	市有地	桜山 7 丁目・同 8 丁目	葉山町にまたがる

県指定（8件）

件 名	種 別	指定年月日	所有者・管理者	所 在 地	備 考
神武寺薬師堂 附 棟札	建造物	昭和 60 年 11 月 29 日	神武寺	沼間 2 丁目	
絹本著色 大威徳明王像	絵 画	昭和 29 年 3 月 30 日	神武寺	沼間 2 丁目	
絹本著色 千手観音像	絵 画	昭和 29 年 3 月 30 日	神武寺	沼間 2 丁目	
木造阿弥陀如来立像	彫 刻	昭和 56 年 7 月 17 日	光照寺	沼間 2 丁目	
銅 鐘（応永十年銘）	工 芸	昭和 44 年 12 月 2 日	海宝院	沼間 2 丁目	
五霊神社の大イチョウとその周辺の樹木	天然記念物	昭和 42 年 7 月 21 日	五霊神社	沼間 3 丁目	
鐙摺の不整合を示す露頭	天然記念物	昭和 52 年 5 月 20 日	逗子市	桜山 9 丁目	
逗子市池子遺跡群出土品	考古資料	平成 14 年 2 月 12 日	逗子市	池子（逗子市池子遺跡群資料館）	

市指定（23件）

件 名	種 別	指定年月日	所有者・管理者	所 在 地	備 考
観 音 堂	建造物	昭和 46 年 12 月 23 日	岩殿寺	久木 5 丁目	
四 脚 門	建造物	昭和 48 年 1 月 26 日	海宝院	沼間 2 丁目	
神 輿	建造物	令和 3 年 9 月 21 日	神明社	池子 2 丁目	
絹本著色 仏涅槃図	絵 画	令和 6 年 1 月 24 日	延命寺	逗子 3 丁目	
木造不動明王立像	彫 刻	昭和 45 年 5 月 1 日	神武寺	沼間 2 丁目	
木造薬師如来坐像及び日光・月光菩薩立像	彫 刻	昭和 45 年 5 月 1 日	神武寺	沼間 2 丁目	
木造阿弥陀如来坐像	彫 刻	昭和 46 年 12 月 23 日	東昌寺	池子 2 丁目	
木造阿弥陀三尊立像	彫 刻	昭和 47 年 7 月 28 日	海前寺	小坪 5 丁目	
木造阿弥陀如来立像	彫 刻	昭和 47 年 7 月 28 日	仏乗院	小坪 4 丁目	
銅造阿弥陀三尊像	彫 刻	昭和 48 年 1 月 26 日	延命寺	逗子 3 丁目	
木造十王及び奪衣婆坐像	彫 刻	昭和 48 年 1 月 26 日	宗泰寺	桜山 7 丁目	
木造十一面観音菩薩坐像	彫 刻	昭和 49 年 12 月 18 日	海宝院	沼間 2 丁目	

件 名	種 別	指定年月日	所有者・管理者	所 在 地	備 考
木造十一面観音菩薩坐像	彫 刻	令和 6 年 10 月 23 日	神武寺	沼間 2 丁目	新規
緑釉唐草文瓶ほか一括	工 芸	昭和 49 年 12 月 18 日	神武寺	沼間 2 丁目	
菊座鈕小松流水文双雀鏡 菊座鈕小松散文双雀鏡ほか硯二面	工 芸	昭和 49 年 12 月 18 日	個 人	桜山 8 丁目	
こんぴら山やぐら群	史 跡	昭和 45 年 5 月 1 日	神武寺	沼間 2 丁目	
みろくやぐら	史 跡	昭和 45 年 5 月 1 日	神武寺	沼間 2 丁目	
先祖やぐら横穴	史 跡	昭和 46 年 12 月 23 日	個 人	沼間 2 丁目	
山の根谷装飾横穴	史 跡	昭和 47 年 8 月 18 日	個 人	山の根 2 丁目	
六代御前の墓伝説地	史 跡	昭和 53 年 2 月 21 日	六代御前史跡保存会	桜山 8 丁目	
「燈摺不整合」の露頭	天然記念物	昭和 47 年 7 月 28 日	逗子市	桜山 9 丁目	
神武寺の岩隙植物群落	天然記念物	平成 5 年 5 月 12 日	神武寺	沼間 2 丁目	
持田遺跡出土の石製装身具及び玉作 関係資料	考古資料	平成 30 年 2 月 23 日	逗子市	池子（逗子市池子遺跡群 資料館）	

国登録有形文化財建造物（8件）

件 名	構造・形式	登録年月日	所有者・管理者	所 在 地	備考
長島孝一家住宅主屋	木造平屋建、 瓦葺、181 m ²	平成 13 年 8 月 28 日	個 人	新宿 1 丁目	明治 33 年頃
旧脇村家住宅主屋	木造二階建、 瓦葺、247 m ²	平成 22 年 4 月 28 日	逗子市	桜山 8 丁目	昭和 9 年
旧正力家別邸主屋	木造二階建 瓦葺、200 m ²	令和 4 年 2 月 17 日	個 人	新宿 3 丁目	昭和前期
旧正力家別邸蔵	RC 造二階建 瓦葺、24 m ²	令和 4 年 2 月 17 日	個 人	新宿 3 丁目	昭和 34 年
旧正力家別邸表門	木造、銅板葺 間口 1.8m	令和 4 年 2 月 17 日	個 人	新宿 3 丁目	昭和中期
須藤家住宅主屋	木造二階建 スレート葺 138 m ²	令和 4 年 2 月 17 日	個 人	新宿 2 丁目	昭和 7 年
須藤家住宅旧ボイラー室	木造平屋建 鉄板葺、8.8 m ²	令和 4 年 2 月 17 日	個 人	新宿 2 丁目	昭和 21 年頃
旧本多家住宅主屋	木造二階建 スレート葺 216 m ²	令和 4 年 10 月 31 日	(株)久米設計	山の根 2 丁目	昭和 13 年

指定等区分別集計表

	建造物	絵画	彫刻	工芸	史跡	天然記念物	考古資料	計
国指定	1				3			4
県指定	1	2	1	1		2	1	8
市指定	3	1	9	2	5	2	1	23
国登録	8							8
計	13	3	10	3	8	4	2	43

令和 6 年 10 月現在